

ブルガダ症候群

5. 治療

① ICD

- ① ブルガダ症候群に発生するVFによる突然死を予防するための確実な治療法は植込み型除細動器（ICD）のみである。
- ② 一度でも心停止やVFを起こしたことがあれば、年間1割の確率でVFが起こる可能性があるためICDの絶対適応となる。
- ③ ブルガダ型心電図を有し、次の3つのうち2つ以上が当てはまればICDの相対適応（植込んだ方がよい）とされる。
 - ① 失神の既往がある。
 - ② 突然死の家族歴をもつ。
 - ③ 電気生理学的検査でVFが誘発される。

② アブレーション

心外膜側の心筋電位の異常を同定して、カテーテルで焼灼することが可能となった。ICD後にもVFをくりかえす例や、内服治療でVF発作がコントロールできない例で有効で、心外膜の異常領域の広範な焼灼で心電図の正常化、VF発作の抑制がみられている。

③ 薬剤

- ① 治療に使ってはいけない薬は、サンリズム、タンボコール
- ② 効果があることを知られている薬は、ベプリコール、リスモダン、プレタール
- ③ VFが繰り返し起きている場合にはプロタノール点滴が有効である。

④ 日常生活上の注意

- ① 自動車の運転、高所作業、電磁波を出す機器に接することを制限する。
- ② 運転制限は必要ない。
- ③ 抗不整脈薬と抗うつ剤（特に3環系抗うつ剤）は注意。
- ④ 体温上昇で心電図異常が強まることあり。発熱時はすぐに解熱剤を内服する。
- ⑤ 高温の風呂への長時間の入浴は避ける。
- ⑥ 過量の飲酒後VF発作を来たす例あり。過飲は避ける。